

ほし 地球に願いを

サミットに寄せて

-①-

水俣市久木野ふるさとセンター
「愛林館」館長

沢畑 亨さん (46)



さわはた・とおる 東大大学院修了(林学専攻)。1994年、全国公募で愛林館館長に就任。森林や棚田の公益的機能への理解を訴え、保全に取り組む。熊本大などで非常勤講師を務める。著書に「森と棚田を考えた」(不知火書房)。

農業守り自給率アップを

現行制度は規模も額も小

を求める

一減反を廃止すると、
さく、効果が不十分

一食料自給率が四割を

ぐらいの抜本的な見直し

を支払ってはどうか。補

償額を十倍に引き上げる

上げるには、例えば、学校給食を完全な米飯にするなど、日本に合った食生活を取り戻すべきでしょう。日本が輸入量を減らせば、食料不足に悩む世界に寄与することになります」

「サミットに望むことは。

「農業にしても漁業にしても、直接に人の命とかかわる食料の価格が、投機的行為の影響を受けないシステムづくりが急務です。さらに、農業に

環境問題をマーケティングに影響を与えていいマニ、温暖化対策や食料問題について各国首脳が意見を交わす北海道洞爺湖サミットが七日、開幕する(九日まで)。私たちの地球を取り戻すため

に、国際社会の進むべき道は、そして日本の果たす役割は…。サミットを前に、九州の関係者に期待と注文を聞く。

◇ ◇ ◇

原油高が食料不足を招いている現状を、どう受け止めていますか。

「原油高の問題は、原油の供給不足や需要増によるものではありません。投機的な動きが、日々の暮らしに直結する食

設園芸は冬季に大量の石油を消費しますが、トマトやナスを真冬に食べる成功例を除けば失敗の連続で、その一つが減反での批判もあります。

「農家は先祖伝来の土地を耕し、ときに森林の手入れもしてきました。洪水や土砂崩落防止など

一町村信孝官房長官が時期にきています」

「原油高の問題は、原油の供給不足や需要増による文化をもう一度考える時期にきています」

「原油高の問題は、原油の供給不足や需要増による文化をもう一度考える時期にきています」

の問題を

解消するため

に、国際社会の進むべき

道は、そして日本の果たす役割は…。サミットを

前に、九州の関係者に期

待と注文を聞く。

「原油高が食料不足を

招いています

ます。納得がいかない

「ただ、石油は限りある資源。長期的視野で考

えれば、石油をなるべく使わない農作物の生産方

法を工夫すべきです。施

設園芸は冬季に大量の石

油を消費しますが、トマ

トやナスを真冬に食べる

成功例を除けば失敗の連

続で、その一つが減反で

コメの価格が低下すると

農地解放などの数少ない

トやナスを真冬に食べる

成功例を除けば失敗の連

続で、その一つが減反で

コメの価格が低下すると

農地解放などの数少ない